

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690800046		
法人名	社会福祉法人 端山園		
事業所名	グループホームいまくまの 2F		
所在地	京都市東山区今熊野北日吉町61-10		
自己評価作成日	令和7年2月14日	評価結果市町村受理日	令和7年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690800046-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F		
訪問調査日	令和7年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設している小規模多機能事業所との一貫した利用を通じて、住み慣れた地域で生活し続けることの担い手として、地域に貢献しています。今年度も地域行事(運動会・防災訓練)に参加させて頂きました。昨年度から引き続きご利用者の方々に作成して頂いた手縫いの雑巾を今年も児童福祉施設・障害者福祉施設・支援学校・災害地など、複数の団体へ寄付活動を行っています。小規模多機能事業所と一緒に、ご利用者が作成された貼り絵の作品を近隣のカフェに飾り付けて頂き、たくさんの方々に披露させて頂いています。今年度は新たに、認知症サポート養成講座への協力や世代間交流へも取り組み、事業所内で障害福祉施設からの出張カフェや近隣の大学生による演奏会を開催いたしました。

自然豊かな豊国廟の石段のふもとに位置する当事業所は、入居者が「住み慣れた地域で、家族、友人と一緒に自分らしく暮らす」生き方を支援されています。今では、コロナ禍による4年のブランクなどなかったかのように地域と連携し、ウイン・ウインの関係を築いています。入居者は当たり前前に社会とつながり、近隣の学校や障がい者施設の孫や、ひ孫のような来訪者に目を細め、雑巾寄贈先からの嬉しい反響は入居者の行動意欲を高めています。また、この1年間の取り組みで成果を得たことの一つに、事故対策があります。居室内の家具やベッド位置の変更、ジョイントマットの敷き詰めなどの転倒予防策を施し、昨年度に比べて事故件数は半減しました。これも、入居者をださない事が生活の質を高める最良の支援との職員間の共通認識によるものです。一方、防災の意識も高く、事業所の立地を考慮し、通常の消防避難訓練のほかに、土砂災害の訓練やBCP(事業継続計画)訓練も頻回おこない、消防署や地域の消防団の協力も得ています。さらに医療面では、主治医や訪問看護の手厚い24時間のサポートがあり、大多数の入居者が当ホームで最期を迎えることを望まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は誰でも目にする事ができるよう玄関口に記載したものをかけている また、理念をもとに各フロアの目標を作り、会議の議事録に理念と共にのせて意識付けし、毎月の会議にて目標の達成状況を確認出来ている	理念は玄関や、各フロアに掲げ、設立以来の初心を大切にしている。また、理念に基づき策定した年度目標は、毎月のユニット会議で達成状況を確認し、議事録にも載せている。理念は運営推進会議議事録にも必ず記載し、参加委員や家族等への周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(区民運動会・防災訓練)や近隣大学の文化祭などに参加している。他にも、近隣の障害者福祉・児童福祉施設、支援学校とも、ご利用者に作成していただいた雑巾の寄付や事業所に招いた交流を図っている。	入居者と修道学区の体育祭の見学や地域の防災訓練に参加している。障がい者の事業所、なずな学園の出張カフェでお菓子と本格コーヒーを頂き、女子大の出張演奏会では、懐かしい曲などを聴き喜ばれている。東山区社会福祉協議会のすこやかカフェや、なずなカフェに入居者作品を展示してもらっている。雑巾を寄贈した施設や学校からの礼状を玄関に貼っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も児童館・障害者福祉施設・支援学校・被災地などにご利用者に作成して頂いた雑巾を寄付。毎月、ご利用者と一緒で作成した創作作品を地域のカフェ等に展示して頂いている。管理者が東山区の運営協議会や認知症サポート養成講座に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方や運営推進会議のメンバーに施設の防災訓練に参加して頂いている。今年度、新たに児童福祉施設へ雑巾を寄付しました。外部研修の案内もあり、運営推進会議では地域貢献や地域とのつながりについて話し合っている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員、民生児童委員、修道学区社会福祉協議会会長、東山区社会福祉協議会職員などの出席があり、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に開催している。行事や入居者の日々の様子、事故報告などを伝え、地域との情報交換をしている。議事録は参加者、家族、行政に送っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	東山区健康長寿推進課と連携を取り、主催されるイベントの際に、雑巾の元となる材料の回収に協力頂いている。	3月の区主催の東山エコフェスタでも区役所内に雑巾材料の回収BOXを設置してもらう予定である。行政に事故報告をしている。地域包括支援センター運営協議会や地域ケア会議などに参加し、行政と連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故苦情身体拘束虐待防止委員会の議事録に身体拘束について記載しており、毎月日にふれるようにしている。フロア会議でも、日々の何気ない声掛けや介助の中で拘束に当たらないか話し合いをしている。	毎月身体拘束に関するチェック表及び虐待の芽チェック表を全職員が提出している。毎月の事故苦情身体拘束委員会の議事録は全職員に回覧している。年2回全職員研修を実施し、詳細な報告書を現地確認している。新規入所の方で帰宅願望のある方には、職員が付き添い、安心してもらうようにしている。とっさに大きな声が出ることもあるが、会議などで振り返り注意喚起している。日中、玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内で行う研修以外にも、施設外の研修の参加やズームを使った研修に参加している。毎月、委員会を開催し、委員会メンバーを中心に、虐待行為がないか確認し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度について研修で学ぶ機会はあるが、入居前に後見制度を利用されているケースがほとんどで、実際には携わっていない。小規模多機能事業所では制度の申請に関わる必要な事項に関わり、申請の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居事前に重要事項説明書及び契約書を説明し、同意を得ている。また改定の際も、その都度説明を行い、了承して頂いている。疑問や質問等ある時は連絡頂くようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前年度と同様に、来所時や運営推進会議議事録同封の意見書にて要望等は聞いている。頂いた意見は運営推進会議で報告し、反映できるよう努めている。また、定期的に連絡し、ご家族からご意見を頂いている。	意見箱に意見はないが、家族等の面会が多く、その時に意見を聞き取っている。主任やリーダーから連絡を入れる場合も多いが、意見としては感謝の言葉が多い。なかには、歩かせて欲しいなどの要望も出ている。有償ボランティアを使って親族の結婚式に出られた例がある。外出時に着せて欲しい服などを用意される家族もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や定期的なヒヤリングで意見を聞く場を設けている。運営に関する意見については委員会や会議で検討している。	普段から話しやすい環境があり、毎年の個人面談でも発言機会がある。以前当事業所に勤め、他の事業所で当事業所の良さを見直したというUターン職員もおられる。入居者に関する提案なども、すぐに取り入れて実行してもらえ、上司、同僚との関係もよく、やり甲斐があると職員は話された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標を継続して取り組み、達成状況や今後の課題等についての話をしている。介護休暇の取得、通常の勤務が負担にならないようにシフト管理等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に基づいて法人内外の研修に参加している。職員主催の勉強会や各委員会にて研修を開催している。外部研修は掲示板で紹介している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人との合同の統一研修へ年間を通じて参加している。管理者は第三者評価委員に従事し、いしだたみの会・東山区事業所連絡会・東山区運営協議会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時に不安や心配事を聞き、要望等についてはどのように対応させていただくか説明している。初期については遠慮など気を遣われることのないよう、話しやすい雰囲気心がけ関係性を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記項目同様、面接時に家族の気持ちや要望を聞き、どのように対応させていただくか具体的に伝えている。入居後も毎日の暮らしの様子を報告し、ご意見伺い対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時には、訪問歯科等の他サービスの利用がお試しも含め可能であることを提案している。また遠方にお住いのご家族には地域ボランティアの活用で、外出や耳鼻科などの受診を補っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常的にはテーブル拭きなど簡単な家事を一緒に担ってもらっている。また新聞やテレビを一緒にみて世間で起こっていることを共有したり、レクの準備の手伝いなど共に過ごす時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には居室環境を一緒に考えて頂いたり、差し入れでは栄養面を補えるよう協力いただいている。重度化された利用者のご家族には筋萎縮や拘縮予防で面会時に関節の曲げ伸ばしをスキミングを兼ねて協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	重度化された利用者の馴染みの場所への外出は難しいが、一部利用者は職員が間に入ってはがきや電話を通してのご近所付き合いが継続出来ておられる。	面会は午後8時までであるが、認知症の症状の著しい方には昼にしている。まれに、もど近所だった方が訪ねてくることもある。10月には2階に新型コロナが発生し、面会中止の時期があった。1階の花を見に行く、絵を描く、貼り絵をする、テレビでスポーツ観戦をするなどのほか、YOUTUBEで昭和の歌謡曲を視聴し、体操、嚙下体操などもされている。携帯電話所持の方の操作を手伝い、家族からの電話も取り次いでいる。親族の結婚式に参列されたり、家族との外出・外食もある。できる方は洗濯物たたみ、トレー拭き、縫物、掃除などの家事を継続されている。	家族に写真とお便りを送るなど、具体的に日頃の様子が分かるものがあれば、さらに親近感が増すのではないのでしょうか。今後に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席位置を工夫し会話が弾むよう配慮している。また、リビングにお連れした際には利用者同士が挨拶ができるようにしている。複数利用者がソファで休まれるときにひざ掛けを譲り合ったり利用者同士で気遣いが見られる場面もあった。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、寄付をいただく時があり、思い出話や相談事を伺い、関係性を継続している。地域にお住まいのご家族にはいまくまの行事の案内し関係性を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	前年度と同様に、本人の思いの把握に努め、毎日のカンファレンスで情報共有プランに反映させている。過去のいろいろなケースをお話しすることで、本人・家族が要望を言い出しやすい環境に務めている。	初回面談で、生活歴や本人や家族の思いをユニットリーダーと管理者が詳しく聞き取り、会議で全職員が共有している。入居時の初回アセスメントや1カ月後の見直しを介護計画に反映させている。部屋から這って出てトイレに行こうとされる入居者には、動線や環境を整えてトイレに歩いていけるように支援している。言葉の出にくい方からは過去の趣味や嗜好を参考にして思いを汲んでいる。家族に頼んで好物の寿司などを差し入れてもらう場合もある。	

京都府 グループホームいまくまの 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お好きな食べ物を伺い、食事時に食べて頂けるように準備している。思い出の品、趣味で作られた作品等を把握し、居室等に飾ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今年度は申し送りを事前にノートに記入し共有できていることで、毎日のカンファレンス時間を増やすことができ、より一層利用者のケアの提案や見直しにつなげられている。ADL低下がみられる利用者のできる力を奪わないケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	上記と同様に、毎日のカンファレンスを充実させることで定期的な会議の中でスムーズにモニタリングが行えている。今年度は医療関係とのカンファレンスを毎月行い、介護計画に役立たせている。特に看取り介護では医療の協力が大きかった。	介護計画は入居後1か月と、それ以降1年で更新し、変化があった時や認定期間終了前にも更新している。主治医、看護師との毎月のカンファレンス、3か月ごとのモニタリングで計画の実施状況を確認している。計画にはチームケアでの各職種の役割が明示されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスノートを活用し、個別に記録し共有している。シフトの都合上、職員が集まったの意見交換が難しいところはノートに記入してもらい、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は利用者の重度化に伴い嚥下機能低下に対応するケースが多かった。ニーズに合わせて食事形態の工夫や栄養面で、できる限りの対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域有償ボランティアを活用し、遠方で家族が対応できない耳鼻科受診を行った。また外出が難しくなった利用者が多く、地域の障害者福祉施設の出張カフェなどを利用していただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	前年度同様、地域の診療所・訪問歯科・訪問看護ステーションと連携し、病状の安定に努めている。職員は歯科衛生士から月に1回口腔ケアの研修を受講し、訪問マッサージにはポジションのアドバイスいただき、それぞれ実践につなげている。	全入居者が入居時に協力医(内科)の月2回の受診を選択し、毎月主治医によるカンファレンスもある。他科受診には家族や有償ボランティアが同行している。訪問看護は週1回であるが、必要時には医師の指示で24時間の点滴も受けられる。入、退院時には病院や家族と情報共有をしている。口腔ケア委員会が力を入れ、訪問歯科受診時の歯科衛生士の指導のもとに、日々口腔ケアを実施している。訪問マッサージ師の施術とアドバイスがある。	

京都府 グループホームいまくまの 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	前年度と同様、週一回の訪問看護にて健康チェックを行い、療養上のアドバイスを頂いている。訪看、診療所と連携を通じて、夜間の急変時の対応も行っている。また小規模スタッフの看護師にも適宜手当等の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに診療所から情報提供書を送ってもらっている。入院先ソーシャルワーカーや病棟看護師・担当医師と情報共有し、施設での生活が送れるよう必要なりハビリも相談できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前年度同様、入居時に重度化した場合の指針をご家族に説明を行っている。終末期には診療所と訪問看護師と連携し、ご家族の意向を確認し、看取り指針を改めて説明し、ご家族に同意を得て、看取り支援を行っている。寝具を準備しており、ご希望がある際は夜も一緒に過ごして頂いている。	入居時に「重度化対応指針」にて家族に説明している。緊急時の「日中、夜間、救急車要請の各フローチャート」を備えている。医師等の説明のもとで、希望者とは「看取り介護についての同意書」を交わし、チームでの看取りを実施している。医療・看護も24時間オンコール体制で入居者に寄り添い、看取り期には家族の付き添い、宿泊もできる。今年度は1名を看取り、事後の職員カンファレンスで振り返っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローチャートを作成し備えている。また委員会活動を通して、感染症についても様々なシュミレーションを想定して施設内訓練を行った。消防署によるAED講習会は毎年継続し、高齢者特有の様々な急変時について勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	福祉避難所に指定されており、3日分の食料品などの備蓄品を備えている。委員会活動を通して災害対策マニュアル及びBCPを見直しを行い、定期的に行っている火災訓練及び土砂災害の訓練で職員の災害に対する意識を高めている。東山区の防災担当の方に災害時の指示を受けている。	消防署立会いの火災通報避難訓練と、学区消防団員参加の消防訓練を年2回実施している。「いまくまの自営消防隊」を組織し、入居者も参加している。土砂災害訓練を机上と直上避難に分けて実施している。全体会議での防災研修のほか、毎月の防災委員会では、BCP(業務継続計画)の項目ごとに「一人スペース確保実測」「簡易トイレ組立」等の具体的な訓練をしている。福祉避難所に指定されており、アルファ米・飲料水・毛布・お粥・衛生用品・カセットコンロなどを避難者の分も考慮して備蓄している。地域の防災訓練に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	前年度同様、研修で学んだことを、実際のケア場面に置き換えて振り返っている。特に咄嗟に出してしまう言葉は、皆で話し合っている。申し送りでは実名を出さず工夫している。	計画的に人権・プライバシー、認知症、身体拘束虐待禁止研修を実施し、入浴、排泄支援は同性介助を心がけている。申し送りは個人名ではなく部屋番号で、排泄状況や身体状況の伝達はノートに示しながら小声でおこなっている。職員の気になる言動はその場で指摘し、ユニット会議などでも話し合っている。普段から羞恥心に配慮した支援をしていると職員からも聞き取った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	テレビ番組や飲み物のご希望を伺っている。レクリエーションや誕生日はご希望に沿った内容を企画している。自己決定の難しい利用者にはわかりやすく選択できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活リズムを継続できるよう支援している。あるご利用者はご自宅では10時過ぎに起床されていたことで、ここでの朝食が負担になっておられた。自宅と同じように過ごしていただくことで負担は取り除けた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	前年度同様、フロアや居室は温度調節していることもあり、季節に合わせた衣装をご自身で選ばれることは難しいが、外出時は楽しく衣装選んでおられる。男性の髭剃り、女性はスカーフなどでおしゃれを楽しむ機会をもって頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は様々ではあるが、工夫して好物をお出ししている。重度化され、以前は食器洗いや盛り付けをお手伝いくださったことも現在は難しいが、トレイ拭きなどできることを担ってくださっている。	副食・ムース食は業者より取り寄せて温め、事業所ではご飯と汁物を作り、キザミ食・ミキサー食・アレルギー対応をしている。朝はパン食も用意できる。おやつは希望を聞き、ゼリー、プリン、ホットケーキなどを作っている。季節行事や誕生日には、行事食の手作りや取り寄せ、ケーキ購入で祝い、夏にはクリームソーダやスイカ割り、秋には焼き芋などをして楽しんでいる。入居者は盛り付けや洗い物、お盆拭きなどをされている。痩せてきた方については、医師に相談し、蛋白質の補給で血色もよくなり生気が戻られた例がある。自身の箸・茶碗・湯飲みを使われている方もある。	

京都府 グループホームいまくまの 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前年度同様、水分表やかかわりファイルで日々の摂取量が確認でき、摂取量が少ない時などは、好きなものの差し入れをご家族に協力頂いて食欲アップに繋げている。また嚥下機能の状態にあわせて、食事形態を変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎のリスク高い利用者が多く、今年度は居室だけでなくリビング洗面台でも口腔ケアが行えるように環境改善を行った。職員は業務の慌ただしい中でも意識して行えるようになった。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	前年度同様、トイレの訴えをされない方は排泄表で排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導等を行っている。立位不安定な利用者にはトイレ内に滑り止めマットを敷いて介助しやすく工夫し、できるだけトイレで排泄できるよう心がけている。	3箇所のトイレは入居者毎に使い分け、排泄パターン表を活用し、こまめなトイレ誘導をしている。排泄困難理由を様々な角度(乳製品・水分補給・体操・腹部マッサージ)から検討し、協力医とは下剤使用の基準を取決めている。オリゴ糖の活用で下剤を減らせた例もある。失敗や不安にも落ち着いた言葉かけで寄り添っている。重度化しても、なんとしても自分でトイレに行きたい方の思いの実現のため、歩いて出てこられるように居室やトイレ内の環境を整備し、成功した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給・乳製品の活用・腹部マッサージやトイレ前の廊下歩行で排泄を促している。一部ご利用者はオリゴ糖で下剤の必要がなくなり、継続して取り組んでいる。今年度はマグミットなどの定期内服薬の見直しを主治医と行い、便状態も改善できた。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調の良い時を考慮して入浴のお誘いを行っている。ご本人の外出などの予定にも合わせ調整している。 看取り期の利用者には医療関係の協力もあり、体調の良いときにシャワー浴が実施できている。	週2回、入居者ごとに曜日を定め、日中の個浴を実施している。外出や往診に合わせて時間帯は柔軟に変更している。浴槽に浸かれない重度の方は、浴室内の温度に注意し、シャワー浴と足浴をおこなっている。浴室内では職員との会話を楽しんでいる。湯、バスマットはつど交換し、好みのシャンプーを使う方もある。入浴後は保湿剤を使用し乾燥に備えている。他にリラクスのための足浴も実施している。	

京都府 グループホームいまくまの 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音や湿度、室温管理に気を付け、寝つきがよくなる方へはアロマを利用し気持ちを落ち着かせるように環境を整えたり、抱き枕を利用している。自由に体を動かすことのできない利用者には楽なポジショニングを工夫した。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	前年度同様、服薬表をファイルに綴じ、何の薬を飲まれているか、また副作用についても確認できるようにしている。新たな薬処方時は、利用者の変化など観察に努め、職員は申し送りやカンファレンスで情報共有している。変化ある時は往診時に限らず主治医に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部のご利用者はテーブル拭き、洗濯物畳み、肩揉みなどその方にあった役割を担っていただいている。重度化され食事形態も難しくなってきたが、ご家族の差し入れや好物、行事食を工夫して召し上がっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中で、豊国廟への外気浴を継続して行えている。家族との外出や一時帰宅を計画していたが状態悪化し残念ながら実現出来なかった。	一歩事業所の玄関を出れば京都市街を一望できる高台の景勝地であり、梅や桜・竹林などを愛でることが出来る。毎日散歩する方、体調により週に数回、付き添いや手引き、車椅子で散策を楽しまれる方など様々である。外出困難な場合でも、窓を開けて空気を入れ替え、外気浴をしている。面会時に家族と喫茶店に行ったり、通院時に一時帰宅される方もある。職員と近隣大学の文化祭や学区運動会に行ったり、有償ボランティアと親族の結婚式に参加された方もある。ドライブ外出は旅行者増加による道路混雑のため難しくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者はお金を所持され、地域なずなカフェを利用されている。以前は日用品を地元商店街に買い物に出かけていたが、現在は職員が代理で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日など家族から贈り物が届いた時は、ご自身にお礼の電話をお願いしている。元気な声にご家族も喜ばれた。手紙やハガキは職員が代読している。返事はカードなど簡単なメッセージを書いてもらった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングではピアノやオルゴールの音楽を流し、心地よく過ごせるよう継続して行っている。今年度は重度化された利用者の免疫低下の原因になる空気の乾燥で、室温や湿度に十分気を配って対策を行った。	ユニットの玄関を入ると椅子や、1人になりたい方用にソファが置かれ、廊下は明るく広い。リビングの壁の大きな桜の貼り絵や押絵作品(干支・ひな人形)、書き初めや季節ごとの行事写真が目を引き。職員が間に入り、針に注意しながら雑巾を縫う入居者の姿がある。また、嚙下体操・お気に入りの歌謡曲、種々のスポーツ(野球・サッカー)などをYOUTUBE配信で視聴される方もある。仲間の空気を感じていたい方は、両脇に大きなクッションをあててリビングのソファで寝入っておられる。5卓のテーブルは入居者の体形を考慮し、高さを変えている。席はたまに交代している。大型加湿器を2台備えて湿度を保っている。職員と一緒に掃除機かけや粘着カーペットクリーナーで掃除をする入居者もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の利用者同士の相性や様子を見て、リビングの席の変更し楽しく過ごしてもらえるよう工夫している。リビングソファは孤独にならず生活音を感じながら休める場として活用している。玄関前ソファは独りの空間として利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	前年度同様、入居前にご家族と相談し、使われていた物や居室の広さにあった家具を用意して頂いている。本人の状態に合わせて家具等の配置をご家族とともに見直している。家族写真やアロマなどでリラックスできる空間を工夫している。	大きな掃き出し窓と洗面台、ベッド、エアコン、クローゼットなどを備えた畳仕様の西側の居室からは、眼下に京都市街を、東側の居室からは、東山の木々や季節の花を見ることができる。TV、机、シルバーカー、家族写真などを配置し、入り口にはそれぞれ色の違う表札を掛けている。転倒防止のためのクッションシートの使用や、伝い歩き可能な動線の確保など、職員のアドバイスと家族の協力で、安全と住み心地両面からの配慮がなされている。ベッドを取り払い、畳生活をされている入居者もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護度が高くなり「できること」「わかること」は難しくなってきたおられ、また体力面でこまめに休んでいただくことを心がけている。覚醒良いときは一人ひとりに合わせお好きな音楽や動画視聴できるように工夫している。		